

受賞者のご挨拶

株式会社 花善

代表取締役社長 八木橋 秀 一 様



この度は、弊社にとって目標でございました名誉ある「中小企業振興表彰」を頂戴し、誠にありがとうございます。従業員に本受賞決定の一報を入れた際は、歓喜の声が上がりその喜びが私の最大の喜びでございました。

さて、花善は駅弁屋を家業としており、明治32年に創業いたしました。来年で120周年を迎えます。花岡旅館弁当部として大館駅開業同日に産声を上げ、当初は幕の内弁当や巻き寿司などを作っており、鶏めし弁当が生まれたのは昭和22年のことです。鶏めし弁当も発売開始より70年が経過しました。

私的なことですが、八代目社長として創業150周年及び鶏めし弁当発売100周年が私に課せられたテーマと受け取っております。

駅弁業者は、長距離列車隆盛時には全国に400社以上ございましたが、現在は90社程度に激減しております。当地秋田県も昭和50年代は8社ございましたが、今は2社となっております。淘汰された理由を簡単に申し上げますと、列車停車時間が短くなり、かつ安全対策上、列車の窓の開閉が出来なくなったため、駅構内での立ち売り業務が難しくなった点にあります。また高速化が進み、車内で飲食せずとも目的地に着くことも一因にあげられます。

花善もご多分に漏れず、平成に入ってから減収減益の一路を辿りました。その頃は秋田新幹線こまち開業に沸き、期待されておりました。

しかしながら、大館駅には新幹線は来ません。なぜ今があるのか？それは、駅に固執せずにネットワーク良く動く駅弁屋に変わったからです。戦略としては旅行会社の企画団体旅行に対する弁当積み込みセールスをし、北東北全域での配達網を構築しました。そして、ゴミの回収の徹底を行いました。

時代は白神山地が脚光を浴びるときです。私は平成9年入社なのですが、その頃の花善は営業という概念が無く、駅弁屋は駅でお客様に弁当を提供するという考え方で経営しておりました。私が12年に常務に就任したまさにその日に、銀行の担当者に「営業に回るお金を貸して欲しい」と申し出たところ、すぐに1,000万円を融資して下さい、そのお金で全国の旅行会社に飛び込みで営業に回りました。旅行業界のルールも分からず、ただただパンフレット片手に「よろしく願います」としか伝えられない若造でございました。

しかしながら、分かったことは皆さんが〔ゴミの処理〕に頭を抱えていたことです。そして、旅行の多様化により店内よりもバスの移動中に昼食を済ませたいという願望がお客様にあることも知りました。目先の楽な仕事では無く、手間が掛かってもやりたくない仕事を率先して行う経営スタイルへの転換期でした。

花善は5年前より大館市内の小中学生に「ふるさとキャリア教育」の一環として、鶏めしの

学校給食提供及び無償の講話活動を行っております。大館市内には現在約5,200名の小中学生がおり、給食センターごとに鶏めし給食日を設け、そして小さな子にも分かるような講話をしなければなりません。アレルギー対応も含め大変な労力を要します。

しかしながら、提供を続けていくことにより次第に花善に変化が生まれてきました。

①購入層の変化。お年寄りと子供たちで花善に買いに来て下さいます。たまに子供たちだけで来られることがございます。

②情報発信。大館の小中学生の修学旅行では旅先で地域PRする時間があるのですが、皆さんが花善をその一つとして宣伝活動をして下さいます。そして高校生はCM作り、大学生は卒論などのテーマにして発信してもらっております。

③従業員の意識変化。時間があるときには生徒たちと一緒に給食を食べ、従業員と直接会話をする時間を設けており、元気と新しい考えを与えてもらっております。

その他、共同での商品開発など、今となっては花善の大きな柱となっており、今回の表彰金の一部を社会貢献活動に寄付して参りたいと考えております。

また、平成27年・28年と「駅弁味の陣」というJR東日本主催の人気投票において総合評価第1位となる〔駅弁大將軍〕に2年連続で選ばれたことも、地域の応援あつてのことだと思っております。

当社は大館駅の真向かいに位置しており、昨年4月に花善は新社屋を竣工いたしました。来年4月には徒歩1分のところに「ハチ公の駅(仮称)」がオープンします。また、大館駅の駅舎改築も将来的に行われる予定となっております。

私どもの新社屋にはギャラリールームがございます。そこでは2階からガラス張りで工場見学が出来、また過去の掛け紙や写真などを見ることが出来ます。お客様に「見える化」の安心感を持っていただきたいと考えて、そのルームを作りましたが、従業員もまた「見られている化」により、より衛生的に駅弁を作ることを意識するようになり、相互にとって良い環境となっております。

また当社はまだ具体的なことは言えませんが、今秋よりEU圏内において海外展開いたします。狙いの一つとして、まず子供たちに秋田県からでも世界を相手に商売が出来る姿勢を見せたいことがあり、そして現行のインバウンドが、物を買ってもらう形から文化を売ることにより誘客する形へと変革していることがあげられます。

「変わらぬ味を守り続けること」とは当社の経営理念の一つです。

変わらぬ味を守り続けることとは、美味しくしないということと同義です。一般論では美味しくする努力をすべきですが、当社の弁当は「昔から変わらない」ことが、お客様に安心して食していただけることに繋がっているのです。お客様の食の思い出は様々です。だからこそ、私たちは旅の思い出作りに励むべく、これからも変わらぬ味に対する努力に取り組んで参ります。

(会社概要)

事業内容	弁当製造・販売、食堂経営
設立	昭和25年5月
資本金	3,762万円
従業員数	55名(パートを含む)
売上高	4億7,100万円(平成30年2月期)